

播磨国風土記ゆかりの地

散策マップ

『神前郡』の郡名由来はここにあり！

神前郡奈のはじまりは、「神前郡 右、神前と号くる所以は、伊和大神の子、建石敷命、山使村の神前山に在しき。乃、神在せるに因りて名とす。故、神前郡と曰う。」の一文からはじまります。

建石敷命が神前山に鎮座することにより、ここを神前郡と名付けたということが、風土記からわかります。



七種山

●奈具佐山
なぐさやま
なぐさやま
 (現：七種山 [福崎町田口])
ひのき
 名前の由来は不明ですが、檜が生えている山と書かれています。



●高岡の里 (現：福崎町高岡地区)

砥川山はどこだろう？！

砥川山の比定地をめぐっては、市川町の浅野山説が定説とされていましたが、近年の研究により、福崎町の日光寺山でも砥石が採れたことや、「砥谷」と呼ばれる場所も残っていることが明らかとなり、こちらの説も興味深いところです。



今から1300年も前につくられた播磨国風土記には、私たちが住む身近な地名の由来が書かれているよ！

フクちゃん・サキちゃん 古代バージョン



神前山



磐座 (いわくら)

●神前山・山使村
かみさきやま やまつかいのむら
 (現：神前山・福崎町山崎地区)
いのおおかみ みこ
 山使村の神前山には、伊和大神の子、建石敷命が住んでいたと書かれています。



春日山から見た八千種地区

●八千軍野
やちくきのの
 (現：福崎町八千種地区)
あめのほこのみこと
 天日杵命の軍が「八千」人もいたとされています。



浅野山



日光寺山

●砥川山
とがわやま
 (現：浅野山 [市川町] / 日光寺山 [福崎町])
 この山でも砥石が採れたそうです。またここで星が出るまで狩りをしたことから、星肆山とも言われているそうです。

～編纂命令1300年～『播磨国風土記』ゆかりの地、福崎

「播磨国風土記」とは

『播磨国風土記』は、和銅6年(713)に朝廷が諸国に命じて作成させたものです。長らく失われていたとされていた風土記でしたが、江戸時代に、平安時代後期の写本が確認され、その後さまざまな研究、論文が発表されました。

風土記は、郡・郷の命名や郡内の特産物、土地の肥沃度のほか、山川原野名の地名由来や古老の伝承が記されたもので、これら風土記を読み解くことにより、古代の神話や伝承、地域の地名由来について知ることができます。



大汝命と小比古尼命の我慢比べ

「神前郡条」を見てみよう

古代の神崎郡には聖岡・川辺・高岡・多駝・蔭山・的部の6つの里があり、神前郡条にはこれら6つの里に関する地名説話が収められています。福崎町は、高岡里や多駝里と、川辺里の一部にあたります。

説話の中には、トイレを我慢して歩く大汝命と、重たい粘土を担いで歩く小比古尼命が競争する、2人の神様によるユニークな我慢比べ伝承も見えます。福崎町内に関する地名説話としては、建石敷命という神様がいたとする神前山や、檜で有名な奈具佐山、新羅の王子と伝わる天日杵命の軍勢が八千いたために名付けられたという八千軍野などが紹介されています。神前山・七種山・八千種など現在にもつながる身近な地名が登場するのも風土記の魅力です。



神前山に降り立った建石敷命

井上通泰の風土記研究

～播磨国風土記新考ができるまで～

福崎町出身の民俗学者・柳田國男の兄で国文学者・歌人としても活躍した井上通泰は、弟の柳田國男に勧められて風土記の研究に取り組みました。

通泰は、播磨出身者という視点から『播磨国風土記』に出てくる地名の場所について研究しました。地名を研究するためには、播磨の地理情報が必要でしたが、旅を好まなかった通泰は播磨の地理に詳しくありませんでした。

そこで、通泰は2つの方法をとりました。1つは播磨の地誌を読むことです。そして、もう1つは播磨出身の人々と会談し、播磨の地理について教えてもらうことでした。

通泰は、風土記研究において『播磨国風土記』の原本へのこだわりを持っていましたが、原本を入手することは困難でした。そこで、通泰が歌の講義を行っていた「南天荘同人会」の門人の1人が、官庁に通って毎日数枚ずつ原本を書き写す作業をしました。

このような記録が「南天荘月報」に記されており、『播磨国風土記新考』ができるまでの過程を知ることができます。



井上通泰 (1866～1941)

柳田國男の兄(3男)。眼科医の道を進むとともに、国文学者・歌人としても活躍しました。

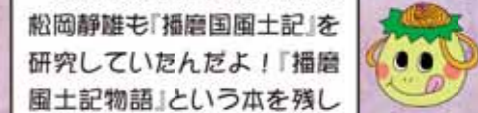
晩年は医業を廃し、万葉集、風土記の研究に力を注ぎ、「萬葉集新考」や『播磨国風土記新考』など様々な著作があります。



『播磨国風土記新考』直筆原稿



通泰がたくさんの人に協力を得ながら5年の歳目をかけて書いた『播磨国風土記新考』は、『播磨国風土記』の研究にとっても重要なものなんだよ。



実は、通泰と國男の弟の松岡静雄も『播磨国風土記』を研究していたんだよ！『播磨国風土記物語』という本を残しているんだって。

風土記ゆかりのスポット



七種山 (なぐさやま)

福崎町最高峰・標高683mの七種山は、流紋岩類からなり、つなぎ岩や笠岩等の奇岩が見られます。雄滝をはじめとした七種48滝が見られることでも知られています。

■所在地/福崎町田口

■アクセス/播但連絡道路・中国自動車道「福崎IC」から作門寺山門駐車場まで車約20分、作門寺山門駐車場から徒歩約80分



神前山 (かむさきやま)

神前山は、福崎町山崎地区にある標高236mの山で、麓にある二之宮神社の境内の脇に登山口があります。山頂からは福崎町の中心部を眺めることができます。また、市川町との境にある千束山(標高333m)までの登山道も整備されています。

■所在地/福崎町山崎

■アクセス/JR播但線福崎駅から二之宮神社まで徒歩約20分、二之宮神社から徒歩約20分

<福崎町への交通アクセス>



■お車をご利用の場合

中国自動車道「福崎IC」、播但連絡道路「福崎北ランプ」または「福崎南ランプ」下車(大阪から約90km、岡山から約110km)

■JRをご利用の場合

JR姫路駅にて播但線に乗り換え「福崎駅」まで30分(大阪から約90分、岡山から約150分)



福崎町キャラクター

「フクちゃん・サキちゃん」

福崎町出身の民俗学者・柳田國男が人生を回顧して書いた著書「故郷七十年」に出てくる河童がモチーフになった河童の兄妹です。

●観光のお問い合わせ●

福崎町観光協会 TEL/0790-22-0560

〒679-2280兵庫県神崎郡福崎町南田原3116-1(福崎町役場内)

福崎町観光協会 検索



編纂1300年を記念した兵庫県内の観光情報等を発信

播磨国風土記 検索